



いたびつ 板櫃 <校訓> 真理の探究 自主躍進

令和6年7月12日(金)発行
校長 栗原博巳
北九州市小倉北区白萩町8番1号
HP: www.kita9.ed.jp/itabitsu-j/

<学校教育目標>
自立・共生～自立心にあふれ、他を思いやる心をもった生徒の育成～
<目指す生徒像>
①「時を守り、場を清め、礼を正す」生徒(凡事徹底)
② 自ら考え、正しく判断し、進んで学習や諸活動に取り組む生徒(自立)
③ 思いやりの心を持ち、協力し合って集団生活の向上に努める生徒(共生)
④ 与えられた仕事に対し、役割を果たすことのできる生徒(責任)



着衣(水)泳の授業が行われました！

7月8日(月)3校時の1年3組の着衣(水)泳の見学に行きました。実際に背浮きの練習を始める前に大森先生から次のような話がありました。「今日やるのは、海や川で溺れたときに、命を落とさないための訓練です」1年生は大森先生の指示をきちんと聞きながら、一生懸命に、真剣に着衣泳に取り組んでいました。服を着たまま、歩いたり、浮かんだり、泳いだり、ビート板を使って浮かぶ(泳ぐ)練習をしました。



最近も、全国で水難事故が起きています。自分の身を守るためにも、着衣泳について学習することはとても大切なことだと思います。

愛媛 西条市の加茂川で小学生女児溺れ死亡 7月7日 NHK

7日午後4時ごろ、愛媛県西条市の加茂川で「小学生の女の子が川でおぼれ、意識や呼吸がない」と近くにいた人から消防に通報がありました。女の子は、救助されて病院に運ばれましたが、およそ1時間後に死亡しました。警察によりますと、亡くなったのは新居浜市に住む10歳の小学生の女の子で、川遊びをしていたとみられるということです。現場は、家族連れなどがキャンプなどで訪れる場所で、警察が当時の状況を詳しく調べています。



着衣泳は「衣服を身につけたまま水に浮き、浮きながら移動する方法」で着衣水泳ともいいます。あやまって水に落ち、おぼれてしまう事故の多くは、衣服を着ている状態で起こることが多いといわれています。水中では衣服によって身体の動きが制限されて泳ぐことが困難になり、泳力に優れた者でもおぼれる場合が少なくありません。このような不慮の事故への対処方法として、1990年代から小学校の授業などで浮くことを重視した着衣泳の指導が行われるようになっていきます。



着衣泳の指導では、水に濡れたときの衣服の状態や動きにくさを知り、着衣や持ち物に備わっている浮力の助けを借りながら水に浮く方法を、ビート板やペットボトルを使いながら学ぶことが重視されています。また、水難事故では、ときに水泳で学ぶ常識とは逆の知識が要求されるケースもあります。たとえば、おぼれたときは、身体を動きや

すくするために服や靴を脱ぐのではなく、あおむけになって背中を丸くして沈め、履いた靴にある浮力を生かして、顔と足を浮かせた背浮きの状態で助けを待つほうが有効となる場合もあります。また、長袖や長ズボンの装着状態はたいへん泳ぎにくいものもありますが、水中にいる時間が長い場合には、厚手の上着が体温の低下を防ぐ重要な助けになるなど、着衣泳ならではのポイントがあります。

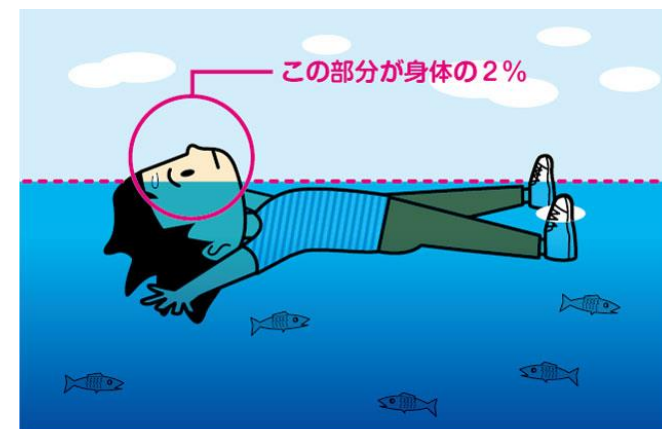


<保育園でも着衣水泳を実施>

水難事故防止に向けての取組は保育園、幼稚園等でも実施されています。子どもたちが海や川などの水辺に出かける機会が増える夏休みを前に、さいたま市の幼稚園では園児たちが服を着たまま泳ぐ「着衣水泳」に挑戦しています。さいたま市北区の明和幼稚園は、30年ほど前から夏休み中の子どもたちの水難事故に備えて毎年、この時期に園児たちが服を着たまま泳ぐ「着衣水泳」の授業を行っています。明和幼稚園では、週に一回、プールの授業があるため、園児たちが水を恐がることはありません。およそ30分間、壁につかまりながら水の中を歩いたり、空のペットボトルを抱きかかえ仰向けになって浮く「ラッコポーズ」を練習したりします。園児たちは、水を吸った服で体が重くなり動きにくくなる感覚を体験しながら、いざという時に命を自分で守る方法を学ぶということです。

空気を吸えば、体全体の2%は水の上に浮く

人間は空気を吸うと、体全体の2%だけ水に浮くようにできています。背浮きをすると、顔がその2%になります。顔が水面から出れば、鼻や口で呼吸ができますね。その状態で浮いていれば、溺れることはありません。しかし、足が下になるとどうなるでしょうか。体が縦になりますから、水面から出る2%は頭のとっぺんになり、顔は水面下に沈んでしまいます。これだと呼吸ができず、溺れてしまいます。



水の比重は1ですが、人の比重は0.98です。つまり、体の2%は必ず浮くのです。この2%を鼻と口にすれば息ができますが、助けを求めて手を上げてしまうと、その手が2%になり、鼻と口は水没してしまうことになります。

